

環境イノベーション

コニカミノルタホールディングス株式会社

取締役 常務執行役 石河 宏



もう後がないとされる危機的な状況にある地球。私たちが今、そして今後長期に亘って直面する最重要課題が地球環境問題の解決にあるといっても過言ではありません。温暖化防止、低炭素社会の実現、CO₂排出量の削減、資源循環の推進、生物多様性の保全など、どの言葉をとっても目的は一つ、地球環境保全のために世界規模で、企業規模で、そして一人ひとりが環境負荷の低減に取り組んでいくことが問われています。現に地球温暖化防止において、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、産業革命前からの地球の温度上昇を2～2.4℃に抑えるためには、2050年には2000年比50～85%のCO₂排出量を削減する必要性を唱えています。また、IEA（国際エネルギー機関）は、技術革新によるCO₂削減量を2050年までに積上げ、排出量の半減を主張しています。2008年のG8洞爺湖サミットでは、2050年までに世界全体のCO₂排出量を現状から半減するという目標を共有することを宣言しています。

このように地球環境問題が切迫する中、コニカミノルタグループは、京都議定書での削減目標を上回るCO₂排出量削減を勘案した製品ライフサイクルベースでの温暖化防止等の中期計画を従前より実践し、相当な成果をあげてきています。しかしながら、当社は、環境への取り組みを数多くある経営課題の単なる一要素ではなく、経営そのものの根幹として捉えており、事業経営と環境経営の両立が環境保全に貢献し企業の持続的発展の源としていくという変革段階にあります。また、もう一方で、企業は経済的利益の追求を事業活動の主体としますから、特に当社のようなメーカーにあっては、事業の成長は生産量、販売量等の増加に繋がり、CO₂排出量の増大

を招くというジレンマに直面します。更にCO₂削減一つをとっても、即効性のある対策は極めて限定的で、むしろ中長期に亘っての地道で且つチャレンジングな、技術面、生産面を含む多面的対応が必要です。

コニカミノルタグループはグローバル企業として、事業と環境の両立を基本とした経営戦略の遂行の下、環境トップランナーを目指した新たな環境ビジョンを策定し、これに則って地球環境保全のパートナーとして持続的に貢献するとともに、環境先端技術の開発と蓄積を通じて事業の発展を図っていきます。具体的には、地球温暖化防止において、超長期な2050年目標として、製品ライフサイクルに関わる全ての活動におけるCO₂排出量を現状から80%削減することを掲げ、これを踏まえて、2015年には製品ライフサイクルで2005年を基準としてCO₂排出量を20%削減するという中期目標を設定しました。

これらのハードルの高い目標を一步、一步、確実に達成に導く原動力となるのは、テクノロジカルイノベーション、技術革新においてほかなりません。商品の省エネ化、生産革新を通じてのCO₂排出量の削減、環境面を徹底追及した次世代新規商品等、どれをとっても環境先端技術によって実現化するものです。本テクノロジーレポートは環境特集を組み、当社の環境技術に照準をあてた革新的技術開発の取り組みの一片をご覧いただけますが、一つの技術革新が次の革新を生み、またその次へと繋がっていく、そして技術素地が広がり、新たな技術を生み次へと革新していく、これらの繰り返しが環境トップランナーを目指す支えの基本となることは間違いありません。